

聖書箇所:創世記2章1-3節  
『この日を聖なるものと』

【1】 天地創造の完成

- ・ 天地創造の六日間
  - 光と闇、昼と夜、大空の下の水と大空の上の水、地と海の区別
  - 種類ごとの植物、種類ごとの動物、人と動物、そして男と女の創造
- ・ 七日目、すべてのわざを「やめられた」(シャヴァット)神
  - 「シャヴァット」 = 「やめる、止める」、「休む(安息日との関連<sup>1</sup>)」
  - 神が創造された世界は手を加える必要のない「非常に良いもの」だった

【2】 この日を聖なるものとされた

- ・ 第七日の祝福
  - 神は「第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた」
  - 天地創造の六日間の延長線上ではなく、第七日を特別な日として区別
- ・ 神のかたちとして造られた人
  - 神が人に与えた役割：被造物を正しく治めること(1:27)
  - 神が人に示した模範：七日目には、働きをやめること
- ・ 安息日の祝福
  - エジプトの奴隷の期間：安息のない日々
  - 出エジプト後：自由の身とされ、神に礼拝をささげることができる日々
  - ▶ 立場の弱い奴隷も外国人も皆安息日を守る恵みへ(参照出エジプト 20:10)

【3】 神に造られたものとして

- ・ 現代人の 365 日：日、時間の区切ることを忘れやすい
- ・ 一週間のサイクルの一日を他の日と区別することの意義
  - 神のかたちとして造られた人として生きる
  - 神に礼拝をささげること、六日間を過ごす力を得る

▷ 神の救いを喜ぶ日を、共に喜び、過ごすことができますように。



<sup>1</sup> HALOT, s.v. “שַׁבָּת,” 4:1407–1408.